

<p>状況</p>	<p>青森むつおさん（76歳・男性）は、5年前に脳梗塞を発症し、左上下肢麻痺になった。補聴器は使用していないが、加齢性難聴の症状がある。3か月前に肺炎のため入院し、ADL がやや低下したため、在宅復帰を目指し介護老人保健施設へ入所して1か月が経過した。入所後は、まだ、積極的に職員や他の利用者とのコミュニケーションを図ろうとはしていない。また、職員が声をかけると、レクリエーションやクラブ（囲碁・カラオケ）などに参加する。</p>	
<p>健康状態 心身機能 身体状況</p>	<p>5年前に脳梗塞を発症。左上下肢麻痺で半側空間無視がある。 要介護度2。障害高齢者の日常生活自立度はランクA-1。身長170cm。体重70kg。 視力は76歳の平均的な状態（眼鏡使用あり）。聴覚は加齢性難聴。 3か月前に肺炎になり病院に入院していた。入院したことによりADL がやや低下している（歩行時のふらつきが時々ある）</p>	
<p>活動</p>	<p>立位：手すりにつかまれば保持可能。 移動：T字杖にて歩行できるが、ふらつきが時々あるため現在は見守りおよび一部介助。 移乗：介助バーを使用し、見守り介助。 食事：箸や滑り止めシートにて動作は見守り介助。水分摂取は自立。食事形態は一般食。好きな食べ物は、じゃっぱ汁やせんべい汁。 排泄：手すりを使用し、下衣上げ下げ一部介助。便意・尿意あり。 入浴：週2回入浴台のある家庭浴槽にて一部介助。洗体は健側を一部介助。</p>	<p>着脱：上衣見守り介助。下衣上げ下げ一部介助。 整容：洗顔、歯磨き、義歯の洗浄、含嗽、髭剃りは見守り介助。健手の手洗いは一部介助。 睡眠：8時間程度とれている。 利き手：右手。 コミュニケーション：錯語やジャーゴンはない。聴力は高い音・小さな音が聞こえづらい。スマートフォンから妻に連絡している。 服薬：施設管理。薬の袋を切ることは介助。自宅では妻が管理している。 家事：（掃除・洗濯・調理・買物など）施設では、介護職員や調理師等が行っている。自宅では妻が行っている。</p>
<p>参加</p>	<p>様々なレクリエーションに積極的に参加。T字杖を使用しているが、入院前のように歩行時ふらつきがなくなるようにリハビリを行っている。現在は施設の囲碁クラブに所属し、職員や利用者を行うことを楽しみにしている。退所後、「地域の囲碁クラブや体を動かす場に参加したい。」と思っている。</p>	
<p>個人因子</p>	<p>76歳の男性。29歳で結婚し、30歳で息子が生まれる。営業職で定年まで食品メーカーに勤務していた。几帳面でありながら性格は朗らか。囲碁・カラオケの他、大相撲・駅伝のテレビ観戦が趣味である。かつては退職後、仕事の経験を活かして、自分の住んでいる地域のために、役に立ちたいと思っていた。家では家事をすべて妻に任せているため、自分でも妻と一緒に家事を行い、妻の負担を少しでも和らげたいと考えている。厚生年金月額20万を受給。現在の1日の過ごし方は、5時起床。新聞を読む。朝食7時。食後、朝の情報番組をみるなど。10時、歩行訓練等を行う。12時昼食。13時すぎ囲碁の研究、14時30分から囲碁やレクリエーション等に参加。16時に共同スペースでテレビを見ている。18時夕食。19時に居室にてニュース番組や読書、音楽鑑賞などを行う。読書は短時間で疲れてしまうことが多い。21時頃に就寝。</p>	
<p>環境因子</p>	<p>現在の居室は、4人部屋である。自宅は、エレベーターのあるマンションの3階に住んでいる。自宅から100メートルほど先には公民館、図書館、商店街がある。自宅から公民館等までの道は平地であり、車通りもほとんどない。 妻は持病があるため、夫が入院前の状態（歩行時のふらつきがない）にならないと介護に不安を感じている。子どもは息子が一人、車で1時間30分程度のところに住んでいる。（息子は結婚しているが子どもはいない）息子夫婦は共働きのため1か月に1回程度息子と嫁が面会に来て、母（むつおさんの妻）の様子についてむつおさんと話をしたり、施設内を散歩している。利用している施設と自宅は、車で30分ほどである。 以前利用していたサービスは、福祉用具購入、福祉用具貸与、住宅改修。 退所後は、自宅には入院前にレンタルしていた介助バーのついたベッドを再度レンタルする予定である。浴室には手すりが設置されており、バスボード、シャワーチェア、浴槽内いすがある。トイレには手すりがあり、シャワー機能付きで、トイレの水を流すのは自動になっている。</p>	

○青森むつおさんの事例から、生活課題を1つあげ、解決するための研究を行って下さい。ICFの考え方に基づいた発表を10分以内でお願いします。